



創立80周年
令和7年度 東京都小学校体育研究会
夏季合同研究会



研究主題

「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習」
-運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して-

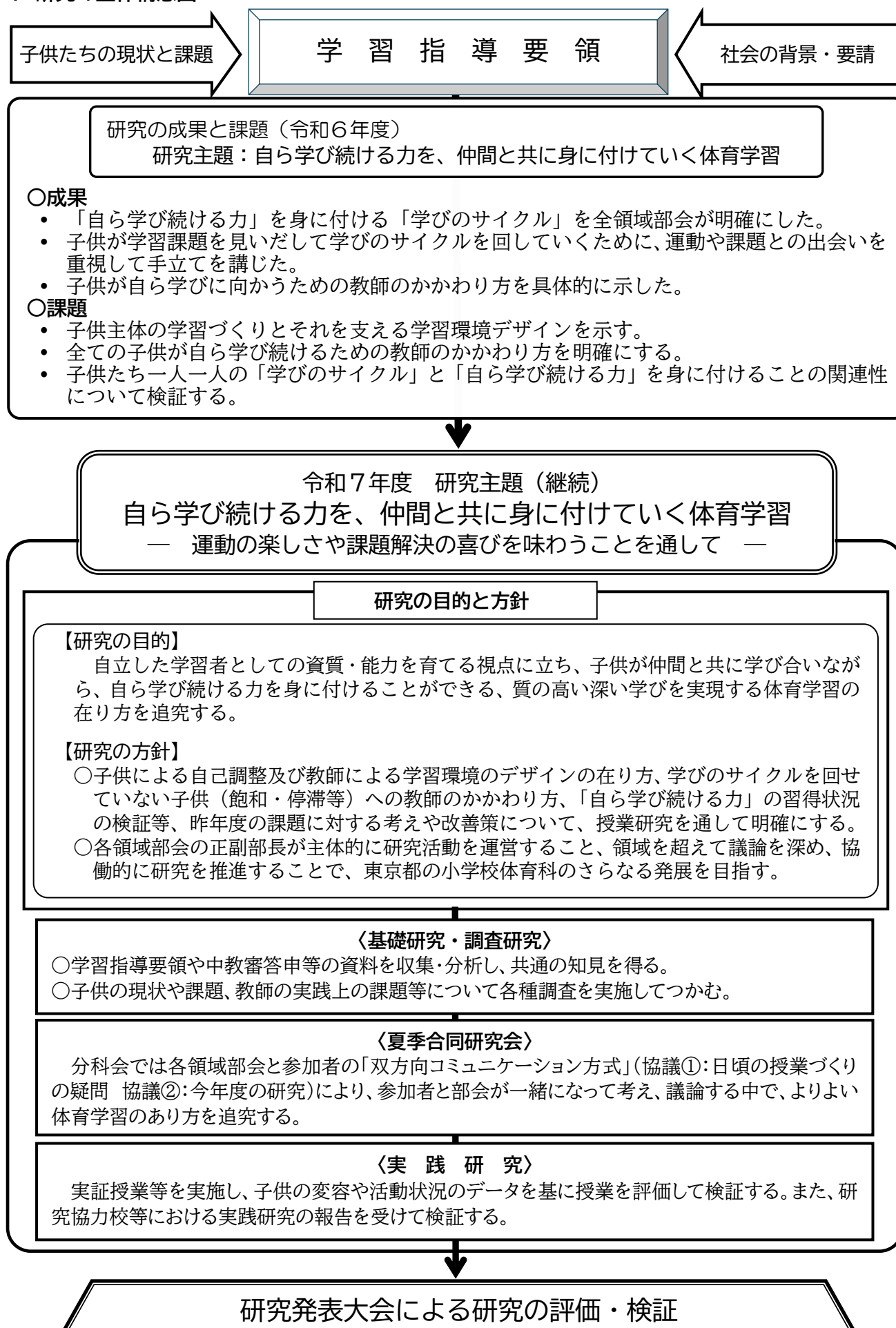
目 次

1	研究の全体構想図	… 1
2	令和7年度の研究と夏季合同研究会について	… 2～3
3	今年度の研究の経過	… 4
4	各領域部会	
	・多様な動きをつくる運動（遊び）領域部会	… 5～6
	・体の動きを高める運動領域部会	… 7～8
	・器械運動系領域部会	… 9～10
	・陸上運動系領域部会	… 11～12
	・水泳運動系領域部会	… 13～14
	・ゲーム領域部会	… 15～16
	・ボール運動領域部会	… 17～18
	・表現運動系領域部会	… 19～20
	・保健領域部会	… 21～22
	・体育的活動領域部会	… 23～24
5	夏季合同研究会の日程	… 25
6	アンケートの二次元コード	… 26
7	夏季合同研究会の会場案内	… 27

日 時：令和7年8月21日（木）8：30～

会 場：千代田区立富士見小学校

1 研究の全体構想図



2 令和7年度の研究と夏季合同研究会について

(1) 研究主題

「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習

—運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して—

(2) 研究主題について

本研究会では、一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、一人一人の豊かで幸せな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成しようと研究を推進してきた。

昨年度は、「自立した学習者の育成」を学習指導のゴールとして描き、資質・能力を育むことをねらいとして体育の授業づくりを行うこと、学習の中で運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して「自ら学び続ける力」を身に付けていくこと、仲間と共に学び合うことによって、自分一人では達成することができなかった質の高い課題解決につなげることを中心に研究を進めてきた。

その結果、「自ら学び続ける力」を身に付けるためには、「学びのサイクル」を子供自身が回せるようにすること、学習の中で「やってみたい」「できるようになりたい」と感じる運動や課題との出会いがあること、子供が自ら学んでいくために、教師がかかわることが必要であることが分かってきた。

また、子供主体の学習づくりとそれを支える学習環境のデザインを示すことや、全ての子供が自ら学び続けるための教師のかかわり方を明確化すること、子供たち一人一人の「学びのサイクル」と「自ら学び続ける力」を身に付けることの関連性について検証すること等の課題も見えてきた。

そこで、今年度も「自立した学習者の育成」を目指し、研究主題を、「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習 —運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して—」として研究を進める。

(3) 研究の方針

- 昨年度の研究成果を踏まえ、「自立した学習者」を育てる体育の授業研究を充実させ、子供たちの「質の高い深い学び」の実現を目指す。
- 子供による自己調整及び教師による学習環境のデザインの在り方、学びのサイクルを回せていない子供（飽和・停滞）への教師のかかわり方、「自ら学び続ける力」の習得状況の検証等、昨年度の課題に対する考えや改善策について、授業研究を通して明確にする。

なお、夏季合同研究会では、

(1) 子供による自己調整及び教師による学習環境のデザインの在り方

(2) 学びのサイクルを回せていない子供（飽和・停滞）への教師のかかわり方

の2点を研究の重点とし、検証については実証授業で提案をする。

- 各領域部会の正副部長が、本研究会の研究を充実・発展させるための手立てを考え、議論することにより、本研究会の運営に参画し、自分たちの研究に責任をもち、主体的に推進していこうとする風土を醸成し、東京都の小学校体育指導の更なる向上を目指す。

(4) 本研究会の運営に参画する正副部長会

今年度の研究の方針である「正副部長が本研究会の運営に参画する」ことに基づき、正副部長会における各回の研修の運営を各領域部長が中心となっていくと共に、研修で協議する内容を事前に各領域部長で検討し、司会も領域部長が行うようにした（P3 2 今年度の研究の経過を参照）。また、「東京都小学校体育研究会の理念」についても正副部長会で議論を重ね、考えをまとめた。

都小体研は何のために 存在するのか	存在意義	東京都における小学校の体育の研究の振興を図る (東京都小学校体育研究会 会則 第二条)
都小体研は どこへ向かうのか	どこを目指すのか	これまでの80年を、これからの10年へ(会長方針) これまでの歴史と伝統及び先人の努力や工夫に学び、 それを更に工夫・発展させバトンをつなぐ
都小体研は 何をするのか	実行すること	「自ら学び続ける力を、 仲間と共に身に付けていく体育学習」 の実現を図る
都小体研はどのように 成し遂げていくのか	行動の指針	○ 研究活動テーマに基づいた実践研究等の重点化 ○ 組織運営(研究に関する議論・新規会員募集や組織の強化) ○ 研修会や学習機会(部会・夏季合研等)の提供 ○ 情報発信・広報活動等(研究成果やコンテンツの発信等) ○ 区市町村教育研究会等への貢献 等
都小体研の一員としての 心構えは何か	心構え	○ 80年の歴史を築き、ご支援をいただいている皆様に感謝・敬意・誠意をもって行動する。 ○ 東京都の小学校体育科の更なる発展を目指し、自分たちの研究に責任をもって、主体的に活動する。 ○ 一方的な発信に留まらず、多様な声を真摯に受け止め、双方向の議論を大切にする。

(5) 夏季合同研究会について

① 趣旨

各領域部会における基礎研究及び研究の重点に係る事項について提案し、様々な実践やニーズをもつ参加者の皆様と双方向の議論を行い、領域部会及び参加者双方の研究を深め、授業改善につなげる。

② 分科会

ア 変更点

- ・ 領域についての様々な質問を事前に確認できるようにしたこと
- ・ 部会と参加者の「2段階の双方向コミュニケーション形式」にしたこと
〈協議1：日頃の授業づくりについて 協議2：今年度の研究について〉

イ 協議

- ・ 協議会では、領域部会から一方的な説明に終始することなく、領域部会と参加者が、双方向での意見を交換し合うことができるようにする。
- ・ 日常の授業づくりの悩みや課題についても、分科会に参加する全員で共に考え協議する。

③ 指導・助言

ア 分科会のまとめの指導・助言

分科会での議論を基に、まとめとしての指導・助言をいただく。

イ 分科会の議論への参加

協議の中で議論を方向付けたり、議論の中で浮かび上がる課題を整理したりするなど、協議の一員としてご参加いただく。

④ その他

夏季合同研究会での議論及び指導・助言を踏まえ、9月から12月までの期間に、各領域部会において実証授業を実施するとともに、その結果を検証し、2月の研究発表大会において成果と課題を報告する。

3 今年度の研究の経過

(1) 研究の進め方について

今年度は各領域部会の正副部長が本研究会の研究を充実・発展させるための手立てを考え、議論することにより、本研究会の運営に参画し、自分たちの研究に責任をもち主体的に研究に取り組んできた。

(2) 正副部長会の内容について（第1回から第5回まで）

研究主題を実現するための共通認識や手立て等につながる議論

◆第1回テーマ 今年度の研究について

- ・自立した学習者としての資質・能力の育成についての共通理解や意見交換

◆第2回テーマ 研究を進めるにあたっての共通認識及び研究の方向性について

- ・都小体研の理念や「自立した学習者」「3つの資質能力」「自ら学び続ける力」等の捉え方について協議

◆第3回テーマ 目指す子供の姿及び検証について

- ・「各領域部の学習内容」と「各領域における自ら学び続ける力」についての情報交換
- ・「自ら学び続ける力」の習得状況の検証についての研修会

◆第4回テーマ 研究の重点について及び各領域部会の進捗状況について

- ・各部会の今年度の取組を全体共有することを通して、今年度の研究の重点について検討

◆第5回テーマ 研究の重点の具体及び夏季合研の分科会運営について

- ・各領域の研究の重点等の交流を通して、共通点や相違点を明らかにするなど協議

(3) 部内授業（公開授業）・実証授業を中心に見た研究の経過

部内授業（公開授業） 5月14日（水）～7月18日（金）

- ・領域部会で必要と考える場合は行う。ただし、講師を招聘せずに実施する。
- ・令和6年度の研究の成果や課題を基に実施する。
- ・都小体研、各領域部会が研究主題を実現するために重点的に明らかにしたいことを研究の重点と定め、授業を実施し、成果と課題を検証する。

夏季合同研究会 8月21日（木）

- ・各領域部会参観者からの質問について共に考えを出し合い共通理解を図る。
- ・都小体研、各領域部会で定めた研究の重点に基づいて、参加者に提案し、双方向での意見交換を通して研究内容を深め、授業改善に資する。

実証授業 9月5日（金）～12月4日（木）

- ・都全域から参集しての授業公開とし、体育担当指導主事等を講師として招聘し実施する。
- ・部内授業等の成果と課題を取り入れて改善した内容や夏季合同研究会での協議内容を取り入れて改善した内容を基に実施する。
- ・授業を実施し、手立て等に関連する成果と課題を検証する。さらに研究主題の実現に向けての成果や課題について検証する。

研究発表大会 2月20日（金）

- ・研究主題の実現に向けての成果や課題をもとに参加者と互いに学び合い、体育授業の振興に寄与する。
- ・明確にした研究の成果と課題を整理し、次年度の研究課題を明示する。

研究協力校	○板橋区立常盤台小学校	研究推薦校	○世田谷区立経堂小学校
	各領域部会		
		正副部長会	

4 各領域部会

多様な動きをつくる運動(遊び)領域部会

1 多様な動きをつくる運動(遊び)領域部会における研究主題の捉え方

本部会では、「自ら学び続ける子供」を「子供自身が運動(遊び)を自己決定し、試行錯誤しながら満足するまで運動(遊び)に取り組み、次の運動(遊び)に向かっていく姿」と捉えている。子供が「やってみたい」「できるようになりたい」と思い続けることが、学び続ける力につながると考える。

特に、低学年から多様な動きに楽しんで取り組むことが、土台となる動きを自然に身に付けることにつながる。



2 研究の重点

(1) 楽しさの設計図 (夢中になる仕掛け)	(2) 学びの共有 (教師の働きかけ)	(3) 中学年における 学習過程の在り方
- 導入で「やってみたい!」を引き出す - 活動中に問いで「もっとやりたい!」を支える - 子供の達成感が分かる振り返り →楽しさを可視化	- 学習が停滞している子供への働きかけ - 子供の考えや動きを見取る教師の視点 - 全体・小集団・個別の共有の違い →実践と記録を通して有効性を探る	- 一般化して共有・低学年の遊びからのスムーズな接続 - 中学年2年間の系統と発達段階の違い - 体づくり運動の系統性 →4年生の学習ゴールと構成を検討

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

複数学級による実践を通して、以下の3点を柱に研究を進めていく。

(1) 子供が運動(遊び)に夢中になる「楽しさ」の設計図

子供が夢中で運動に取り組む背景には、教師が子供の動きや気持ちの変化を見通して設計した「意図的な仕掛け」や工夫があると考えられる。

本部会では、「楽しさの散りばめ」を構成する要素(「やってみたい!」を引き出す導入の工夫、「もっとやりたい!」につなげる問いの言葉がけ、「できた!」を実感できる称賛の工夫など)を整理し、誰もが活用できる「楽しさの設計図」として可視化・一般化していく。

さらに、「シン・運動遊び例集」の改訂や既存資料の刷新を通じて、教師の指導改善に資する教材整備も進めていく予定である。これにより、「自ら学び続ける子供」の姿に一層迫ることを目指す。

(2) 子供の学習状況に応じた「学びの共有」の働きかけ方

「学びのサイクル」を自分の力で回すことが難しい子供に対して、教師がどのようにかかわることで学びを促進できるのかを明らかにする。具体的には、自分の考えを言葉にできない、学びが停滞している、あるいは子供の学習状況が教師から見えにくい場合では、「学びの共有」の場をどう設定するかが鍵となる。全体、小集団、個別などの異なる場面で、どのような共有の仕方が有効かについて、複数学級での実践を通じて検証していく予定である。学習カードや映像記録を活用し、子供の変容の様子から、働きかけの工夫とその効果を明らかにしていく。

「多様な動きをつくる運動」のゴールや学びの過程を提案できるよう、研究を進めていく。

(3) 中学年における「多様な動きをつくる運動」の学習過程の在り方

中学年では、低学年の運動遊びからの自然なつながりを意識した学習過程の構築が求められる。また、中学年2年間の発達の違いや、「体の動きを高める運動」を含めた6年間の系統性も踏まえ、4年生の単元構成をどう組むかを検討していく。

広い視野での学習過程を考え、複数学級による実践を通して中学年における「多様な動きをつくる運動」のゴールや学びの過程を提案できるよう、研究を進めていく。

4 学習指導案

(1) 学習過程

<第4学年 多様な動きをつくる運動「よつぎプレイパークで運動しよう！」>

時	1～4	5～6	7～9	10～12	13・14（本時）・15
段階	学びのサイクルの「回し方を知る」段階			学びのサイクルを「自分自身で回す」段階	
子供の姿	できるようになりたい動きに粘り強く取り組む 上手な友達を見付けて、真似している		運動のこつやポイントを考え、試行錯誤する 友達と互いに見合い、助言し合っている		運動のこつやポイントを考え、友達と助言し合い、自らの学習を自己調整しながら試行錯誤を繰り返している
学習内容	バランス	用具【ボール】 ※ボールを持つ、つかむ、おろすなど	移動	力試し	※やってみよう運動を選択して取り組む
	用具【フープ】		用具【短なわ】	用具【ボール】	移動、バランス、力試し
	基本的な動きを組み合わせる運動	用具【竹馬、一輪車、長なわ】	基本的な動きを組み合わせる運動	基本的な動きを組み合わせる運動	【ボール】【フープ】【短なわ】 基本的な動きを組み合わせる運動

(2) 本時の学習（15時間中の14時間目）

① 本時のねらい

- 基本的な動きや基本的な動きを組み合わせた動きができるようにする。【知識及び運動】
- 多様な動きをつくる運動を選び、試行錯誤しながら取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	本時における「自ら学び続けている子供の姿」
1 準備運動をする。	○曲に合わせて体を動かし、心と体のスイッチオンができるようにする。	
2 学習のめあてを確認する。 ㊦ できるようになりたい運動に取り組もう！	発問 「今日は何ができるようになりたい？」 「どうしたら、できるようになる？」 ○できるようになりたい運動を選び、繰り返し粘り強く取り組む子供を称賛する。 ○友達と励まし合い、運動に進んで取り組んでいる子供を称賛する。 ◎上手な友達の動きを真似したり、動きのポイントを具体的に助言したりする。 ○運動のこつを考え、そのこつや運動のポイントを友達と共有しながら、より上手にできるようになろうとしている子供を称賛し、その学び方を共有する。	・「できるようになりたい」運動を選び、試行錯誤を繰り返している。 ・上手な友達を見付け、その学び方を進んで真似する。 ・教師や上手な友達に自ら助言を求め、自分の運動に取り入れようとしている。
3 「体のバランスをとる運動」「体を移動する運動」「力試しの運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」の中からできるようになりたい運動を選んで取り組む。 移動 バランス 力試し 組み合わせ <やってみる時間> ↓ <学びの共有> ↓↑ <もう一度やってみる時間>	○進んで用具を選び、すぐに運動に取り組んでいる子供を称賛する。 ○「できるようになりたい」「もっと上手になりたい」運動を選んでいる子供を称賛し、全体に共有する。 ○用具ごとに子供を集め、本時のねらいに沿った子供の姿を共有する。 ○子供一人一人の課題を適切に見取りその課題に応じた小集団で、学びを共有する。 ◎共有した内容の理解を深めるために、個別に言葉をかけて運動のポイントや学び方について具体的に言葉を掛ける。	・「次は○○ができるようになりたい！」というように、自ら課題を修正している。
4 「用具を操作する運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」に取り組む。 (ボール、フープ、短なわから用具を選んだり、組み合わせたりする。) 用具操作 組み合わせ <やってみる時間> ↓ <学びの共有> ↓↑ <もう一度やってみる時間>		
5 後片付け・整理運動をする。 6 学習の振り返りをする。	○本時のねらいに沿った振り返りができるように、本時の発問を確認する。 ◎学習カードを書くために、取り組んだことを個別に言葉をかけて確認する。	・次時に向けて、具体的に振り返りカードに記入する。

5 実証授業について

(1) 実施学年、実施単元、実施日、実施学校、授業者等

第4学年 多様な動きをつくる運動 「よつぎプレイパークで運動しよう！」

令和7年11月4日（火） 葛飾区立よつぎ小学校 五十嵐 渉 主任教諭

体の動きを高める運動領域部会

1 体の動きを高める運動領域における研究主題の捉え方

体の動きを高める運動領域は、「子供一人一人の目的に応じて、学習課題を設定し、課題解決しながら体の動きを高めていく」という特性がある。本部会では、研究主題を受け、自ら学び続ける力を身に付けることができた子供の姿を、「子供自身の学習課題を見だし、自らの取組を他者と比較しながら振り返り、新たな学習課題を見いだすことができている姿」と捉えている。学習課題を見いだすことは自ら学び続ける力と関連性があると考えている。子供が見いだした学習課題を一単位時間で「見通し」→「行動」→「振り返り」→「見通し」といった学びのサイクルを回せることを目指している。

学びのサイクルを回しながら課題解決する経験を積み重ねることで、学びのサイクルの推進力が強くなり、自ら学び続ける力が高まるであろうと考えた。

2 研究の重点

(1) 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができる運動例の設定

→体づくり運動を行う上での楽しさや課題解決の喜びを味わえることを前提とし、「体の動きを高めることにつなげることができる」「仲間と関わりのある」等の視点で、運動例を検討し、充実を図る。

(2) 体の動きを高めるための学びのサイクルを子供自ら回すことができる共有の在り方

→自ら体の動きを高めることの必要感を感じられるような学習環境の整備や学習資料の充実を行っていく。子供の学習状況を見とりながら、多様な方法で学びの共有を図れるようにする。

(3) 自ら学び続ける力を身に付けることができる第6学年の学習過程、指導計画の立案

→学びのサイクルを子供自ら回す中で、体の動きを高めることの必要感を感じながら、課題解決を図り、新たな課題を見いだすことにつなげ、自ら学び続けることができる第6学年の子供の育成を目指していく。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

(1) 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができる運動例の設定

子供一人一人が、運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができるよう、用具や場を見ただけで、運動のイメージを広げられるような運動であるかという点である。

(2) 体の動きを高めるための学びのサイクルを子供自ら回すことができる多様な共有方法の工夫

子供一人一人が見いだした学習課題の解決に向けて取り組み、気付くことができた動きのこつや工夫の仕方、体の動きを高めるための学び方を仲間と共有することで、体の動きを高める運動における学び方の定着や意欲につながると考える。今年度は、「共有内容の具体化」「共有したい内容とタイミングの目安」「自ら学び続ける力を身に付けるための共有スペース」を手立てとし、自ら学び続ける力を高めることにつなげることができるかを明らかにしていく。

(3) 自ら学び続ける力を身に付けることができる第6学年の学習過程の工夫

本部会の目指す子供の姿となるように、第5・6学年の全20時間を、第5・6学年で行う体ほぐしの運動を除く、16時間を4時間ずつの第Ⅰ期～第Ⅳ期に分けた。その16時間を、具体的に段階を分け、学習計画を作成した。

4 学習指導案

(1) 学習過程

＜ 第6学年 体ほぐしの運動、体の動きを高めるための運動 ＞

部内授業では、第5学年で十分に体の動きを高める運動の学びに触れられていない実態を踏まえ、第6学年のみの学習過程に基づき、授業を行った。部内授業で示した学習過程は、以下の通りである。

			第Ⅰ期【学び方を知る段階】				第Ⅱ期【学び方を生かす段階】			
	第1時	第2時	第1時	第2時	第3時	第4時(本時)	第5時	第6時	第7時	第8時
第6学年	体ほぐし		運動との出会い	柔			円をやってみる	柔		
			⑤を やってみる	巧・力			巧・力	巧・力・持		

時	1	2	3	4(本時)
段階	【第6学年 第Ⅰ期】学び方を知る段階			
子供の姿	運動との出会いを通して、問いをもつ。	自分の体力に応じた学習課題を見いだす。	「体の動きを高める運動」の学び方を知り、学習課題を解決する。 他者の学び方に目を向けて比較したり、客観的に自分を見たりして振り返り、新たな学習課題を見いだす。	
学習活動	1 プロモーションムービーを観る。 2 運動に取り組む。 3 感想や問いをもつ。	1 問いから学習課題への見だし方を知る。 2 運動に取り組む。	1 学習課題を確認する。 2 運動に取り組む。 3 新たな学習課題を見いだす。	

(2) 本時の学習（4時間中の4時間目）

① 本時のねらい

- 学習課題を解決するために、自己の体力に応じて体の柔らかさや巧みな動きを高める運動に取り組むことができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	本時における 「自ら学び続けている子供の姿」
1 共有スペースに集合・整列・挨拶 2 前時の学習を想起する。 3 準備運動を行う。 4 体の柔らかさを高める運動 ○ エンジョイストレッチ 5 自分の学習課題をグループで確認する。	○本時の一人一人の学習課題を確認する。 ◎学習課題がもちづらい人には共有スペースにあるめあての中から選べるように声かけを行う。 ○部位を意識させるよう声をかける。 ○動きの高まりが実感できるように、運動を行う。 ○前と後に現状を知る活動(計測)を取り入れる。 ○全体を円に形に広げ、一斉に運動に取り組み、互いの動きを見合えるようにする。	・なりたい自分の姿(ゴールイメージ)を明確にもち、ゴールに向けて自分のめあてを明確にしている。
6 巧みな動きを高める運動・力強い動きを高めるための運動に取り組む。(下記から1つ以上選択) ○スラックレール(バランス) ○ボール(力の入れ加減) ○ラダー(リズミカル) ○長なわ+(タイミング) ○ガロンスロー(力強い動き)	○自分の学習課題を同じ運動の場の仲間に伝え、学び合いにつなげるようにする。 ○動きの工夫、ポイントについて、共有スペースを活用しながら確認する。 ○教師が子供の学習状況を見取り、学び方の確認を行う。 ◎高まりの実感がなかなか伴わないようであれば、動画を撮影することや、仲間との対話を促す。	・いくつかの運動に取り組みながら、自分の動きの高まりを実感し、それを共有スペースで伝え合っている。
7 整理運動・片付け 8 振り返りを行う。	○各部位を意識して運動するように声を掛ける。 ○気付いたポイントや仲間との関わりを意図的に取り上げるようにする。 ○次時の見通しがもてない子供には学びのロードマップを見て、気付きを促す。	・自分の学習を振り返り、仲間に言葉で大切なことを伝えることができる。

5 実証授業について

(1) 実施学年、実施単元、実施日、実施学校、授業者等

第6学年 体づくり運動 体ほぐしの運動・体の動きを高める運動

令和7年11月28日(金) 大田区立大森第四小学校 藤井 智崇 主幹教諭

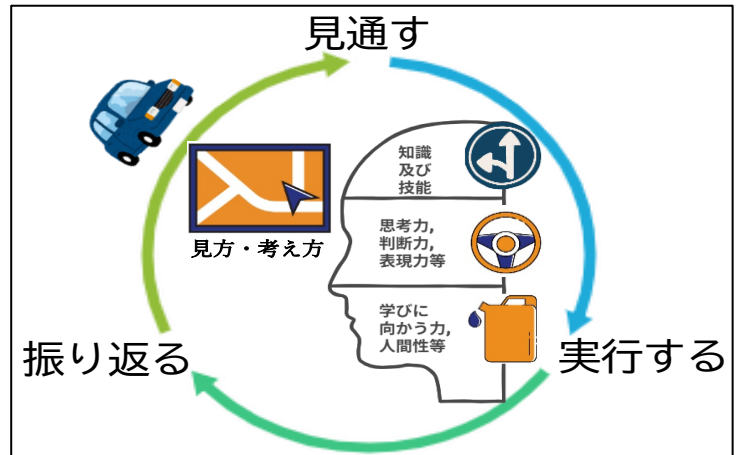
器械運動系領域部会

1 器械運動系領域における研究主題の捉え方

本部会では、「自ら学び続ける力を身に付けた子供」を「体育の見方・考え方を働かせ、自ら学習課題を見だし、他者と協働しながら、学びを深めていく子供」と捉えている。

具体的な姿としては、下図のような「学びのサイクルを自ら回している姿」であると考えている。

器械運動系領域で取り上げる運動は、非日常的な動きが含まれることから、「面白そうだ」や「怖い」など、運動に対する感じ方は子供によって様々である。そのような個々の感じ方を考慮した上で、どの子供も「自ら学び続ける力」を身に付けるために、技が「できる・できない」という二元的な視点だけでなく、教材のもつ多様な楽しさに触れることを大切にしたい。そして、仲間と共にできばえを認め合い、伝え合い、励まし合う中で、課題解決を図り、「多様なできた」を実感できるような学習環境をデザインする必要があると考えている。



2 研究の重点

(1) 子供による自己調整及び教師による学習環境のデザイン

一本の鉄の棒を軸に逆さになったり、体を振ったり、回ったりするなどの、鉄棒運動の多様な楽しさに触れながら、「これならできそう」「やってみたい」と思える学習環境をデザインする。また、自己の能力に適した運動に取り組めるよう、体育の見方・考え方を働かせ、自ら学習を調整しながら学習課題を解決できるようにする。

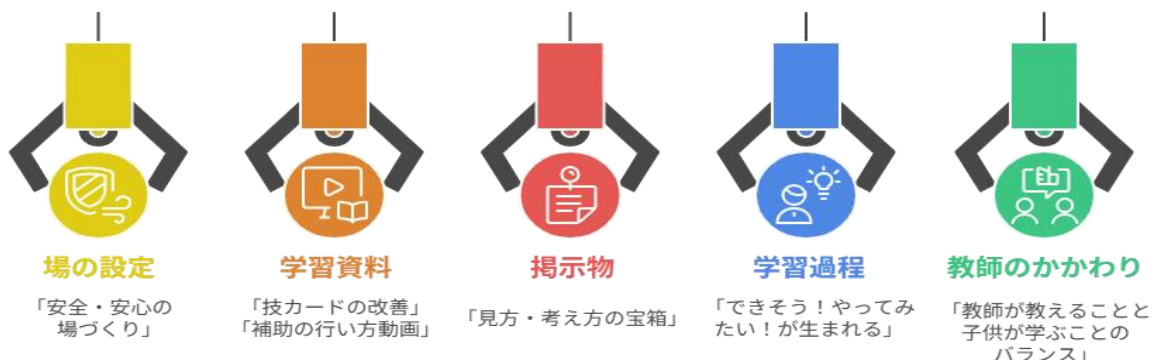
(2) 学びのサイクルを回せていない子供（飽和・停滞等）への教師のかかわり方

子供が器械運動系領域における学びのサイクルを自ら回し、3つの資質・能力を身に付けていくための指導計画を明確にする。また、教師が個々の学習状況を把握し、それぞれの状況に応じた支援を行う。

(3) 協働的な学びの促進

鉄棒運動は限られた空間の中での運動であり、互いの運動を見合い、支え合うことを学ぶのに適した教材であると考えている。学習資料を活用し、子供同士の意見交換を行う中で、自分の体の動きについて理解を図る。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫



4 学習指導案

(1) 学習過程 < 第4学年 器械運動 「めざせ てつぼうマスター！」 >

時	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
段階	学習の見通しをもつ。	易しい運動や基本的な技の行い方を知り、今もっている力で運動に取り組む。		課題解決のための活動を工夫して技に挑戦することを楽しむ。			
子供の姿	準備の仕方や運動の行い方について知り、安全に取り組む。	技のポイントや行い方、運動の見合い方、補助の仕方について知り、自己に適した運動に取り組んで課題を見いだす。		自己に適した運動に取り組み、練習方法を選んだり、友達と学び合ったりしながら課題を解決する。			
学習活動	○学習の進め方、安全についてのきまりを確認する。 ○場の準備をする。 ○準備運動、主運動につながる運動をする。 ○3年生までに学習した運動に取り組む。	○準備運動 ○主運動につながる運動をする。		○できるようになりたい技に取り組む。(自己に適した運動に挑戦する) ・学習課題を確認する。 ・グループ学習を通して、仲間の学習成果や自己の見付けたコツを伝え合う。			
		○様々な支持の姿勢から安全に下りる動きや技に取り組む。 ・台乗り転向前下り ・転向前下り ・片足踏み越し下り	○振動したり、回ったりする動きや技に取り組む。(選択) <u>【腹を掛ける】</u> ・補助かかえ込み振り ・かかえ込み振り ・かかえ込み後ろ回り <u>【膝を掛ける】</u> ・補助膝掛け振り ・膝掛け振り ・膝掛け振り上がり				
○整理運動、場の片付けをする。 ○学習の振り返りをする。							

(2) 本時の学習(7時間中の6時間目)

①本時のねらい

- 自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選ぶことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】

②本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮が必要な子供への支援	本時における「自ら学び続けている子供の姿」
1 集合・整列・挨拶する。 2 学習の流れを確認する。 3 場の準備をする。 4 準備運動主運動につながる運動に取り組む。 5 できるようになりたい技に取り組む。 6 整理運動をする。 7 場の片付けをする。 8 学習の振り返りをする。 9 集合・整列・挨拶	4 ○手首を中心に使う部位を意識するよう言葉かけをする。 ◎正しく行えるように声をかけたり、補助をしたりする。 5 ○自己に適した運動と場にずれがないか確認し、設定した学習課題が適切ではない子供には、資料の動きと自分の動きを比べることを提案し、学習課題の修正を促す。 ◎学習が停滞しているグループに意図的にかかわり、試技の様子や学習資料を見比べ、練習方法や場が合っているかを伝え合うことを確認する。 7 ○自己の学習活動に対して振り返るよう言葉かけをする。	・ 自己に適した運動や技の行い方を知っている。 ・ 自己の課題を見付け、それに応じた練習方法を選んでいる。 ・ 友達の動きを見て自分の考えを伝えたり、友達の運動を補助したりしている。 ・ 自己の活動を振り返り、次時の目標を立てる。

5 実証授業について

(1) 実施学年、実施単元、実施日、実施学校、授業者等

第4学年 器械運動「鉄棒運動」令和7年10月16日(木) 葛飾区立東金町小学校 貝原明紘 主任教諭

陸上運動系領域部会

1 陸上運動系領域における研究主題の捉え方

陸上運動系領域部会では、「自ら学び続ける力」を身に付けた子供の姿を以下のように捉えた。

- ①目標を設定し、その達成に向けた計画(自己の課題や解決方法)を自分で決めている。
- ②他者と協働して運動に取り組んでいる。
- ③自分の取組を振り返り、成果と原因を分析している。
- ④分析結果から次の取組を調整している。
- ⑤レジリエンス(逆境の状況から元に戻す回復力の強さ、折れにくさ、打たれ強さ)を発揮している。

「見通す、実行する、振り返る」という学びのサイクルを回していく中でこれらの力が身に付くことで、より質の高い課題解決につながり、資質・能力を育むことができると考えた。走・跳の運動遊びでは、遊びたい活動を自分で選び、より楽しむために遊び方を工夫し、夢中になって何度も取り組むことが重要になってくる。そのために、運動との出会いや、学習環境のデザインを大切にしていきたい。

2 研究の重点(第1学年 走の運動遊び)

(1)子供による自己調整及び教師による学習環境のデザインの在り方

子供が自己調整しながら学習を進めていくためには、子供が「やってみたい」と思える運動との出会いや、自分で活動を選び、夢中になって遊べる学習環境づくりが大切である。子供にとって魅力のあるかけっこやリレーを用意し、夢中になって取り組む世界観を設定することにした。

(2)学びのサイクルを回せていない子供《飽和・停滞等》への教師のかかわり方

本部会では、学びのサイクルを回せていない子供の姿として、「1つの場でしか遊んでいない」「遊び方の工夫が分からない」「競走に負けてやる気を失ってしまう」などがあると考えた。これらのように学習が飽和・停滞している子供に対しての教師の働きかけを考えていく。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

(1)魅力ある活動例の開発

子供が「楽しい」「やってみたい」と思えるかけっこやリレーの活動を考えている。これらの活動には、子供が力いっぱい活動できるよう、活動の中に①競走、②偶然性、③友達の動きをまねる機会、④身体が揺れたり、傾いたり、回ったりしている感覚といった4つの要素が含まれている。活動はシンプルにし、より楽しくなるように子供が創意工夫できる余地を残そうと考えている。

また、子供が夢中になって運動遊びに取り組めるよう、世界観を設定することになっている。

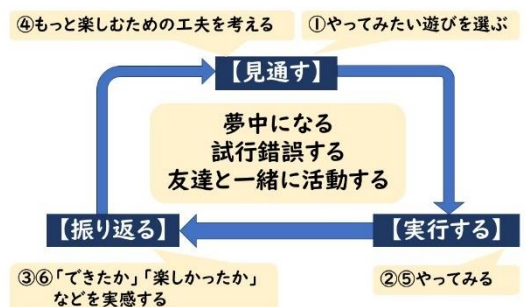
(2)低学年における学びのサイクル

本部会では、子供が次のような学びのサイクルを回していると考えた。①やってみたい活動を選び(見通す)、②やってみて(実行する)、③『「できたか」「楽しかったか」など』を実感する(振り返る)。④もっと楽しむための工夫を考え(見通す)、⑤再びやってみて(実行する)、⑥『「できたか」「楽しかったか」など』を実感する(振り返る)。

夢中になって遊ぶこと、試行錯誤しながら遊ぶこと、友達と一緒に遊ぶことで、学びのサイクルを回し続けることができ、運動の特性に応じた楽しさに触れ、資質・能力を身に付けられると考えた。

(3)教師の働きかけ

魅力ある活動を用意すれば、子供たちは夢中になって運動遊びに取り組むようになるはずだが、それでも学びが停滞したり飽和したりする状況も考えられる。教師は子供たちの様子を観察し、子供の停滞や飽和の状態に応じて「動きを広げる言葉がけ」「遊び方を広げる言葉がけ」などの働きかけを行うことを考えている。



4 学習指導案

(1) 学習過程

< 第1学年 走・跳の運動遊び「〇〇ランドで遊ぼう(仮)」 >

時	1	2	3	4（本時）	5
段階	見いだす 様々なかけっこやリレーの行い方を知り、楽しむ。 もっとやってみたいかけっこやリレーを見付ける。		解決する 様々なかけっこやリレーの中から自分で活動を選び、 遊び方や走り方を工夫して楽しむ。		
子供の姿	・友達と一緒に運動遊びに取り組んでいる。 ・夢中になって何度も運動遊びに取り組んでいる。 ・競走に負けても、気持ちを切り替えて次の運動遊びに取り組んでいる。		・やってみたいかけっこやリレーを選んでいる。 ・友達と一緒に運動遊びに取り組んでいる。 ・友達の動きや工夫のよさを見付け、それを伝えたり真似したりしている。 ・もっと楽しむための工夫を考えている。 ・夢中になって何度も運動遊びに取り組んでいる。 ・競走に負けても、気持ちを切り替えて次の運動遊びに取り組んでいる。		
学習活動	1 学習内容を確認する。 2 準備運動をする。 3 用具を準備する。				
	4 走の運動遊びに取り組む。 ・まっすぐ ・くるくる ・くねくね ・ぐるぐる ・ぴよんぴよん ・ジグザグ ・コースづくりリレー ・宝運びリレー など 【活動の流れ】 ①やってみる→②楽しかったことや、どうしたらもっと楽しめるかななどを共有する→③共有したことを生かしてさらにやってみる		4 走の運動遊びに取り組む。 ・かけっこやリレーを選び、遊び方や走り方を工夫してやってみる。 ・もっと楽しむための工夫を考えて、やってみる。 ※必要に応じて共有する時間をとる。		
	5 用具を片付ける。 6 整理運動をする。 7 学習を振り返る。				

(2) 本時の学習 (5時間中の4時間目)

① 本時のねらい

- いろいろな形状の線上等を走ったり、いろいろな間隔に並べられた低い障害物を走り越えたりすることができるようになる。【知識及び技能】
- 自己に適した運動遊びの場を選ぶことができるようになる。【思考力、判断力、表現力等】
- 走の運動遊びに進んで取り組むことができるようになる。【学びに向かう力、人間性等】

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	本時における 「自ら学び続けている子供の姿」
1 学習内容を確認する。 2 準備運動をする。 3 用具を準備する。 4 走の運動遊びに取り組む。 ・かけっこやリレーを選び、遊び方や走り方を工夫してやってみる。 ・もっと楽しむための工夫を考えて、やってみる。 ※必要に応じて共有する時間をとる。 5 用具を片付ける。 6 整理運動をする。 7 学習を振り返る。	○音楽に合わせて行い、心と体のスイッチを入れられるようにする。 ○いろいろなコースを全力で走ったり、より楽しめるようにコースや行い方、きまりを工夫したりしている子供を称賛し、全体に広める。 ◎かけっこだけ、リレーだけに取り組んでいる子供には、他の活動もやってみよう促す。 ◎工夫が思いつかない子供には、友達と一緒に活動して真似してみよう促す。 ◎競走を好まない子供には、いろいろな走り方で楽しめる場や行い方を紹介する。 ○本時の学習を振り返り、もっと楽しむための工夫を考えるよう促す。	・やってみたいかけっこやリレーを選んでいる。 ・友達と一緒に運動遊びに取り組んでいる。 ・友達の動きや工夫のよさを見付け、それを伝えたり真似したりしている。 ・もっと楽しむための工夫を考えている。 ・夢中になって何度も運動遊びに取り組んでいる。 ・競走に負けても、気持ちを切り替えて次の運動遊びに取り組んでいる。

5 実証授業について

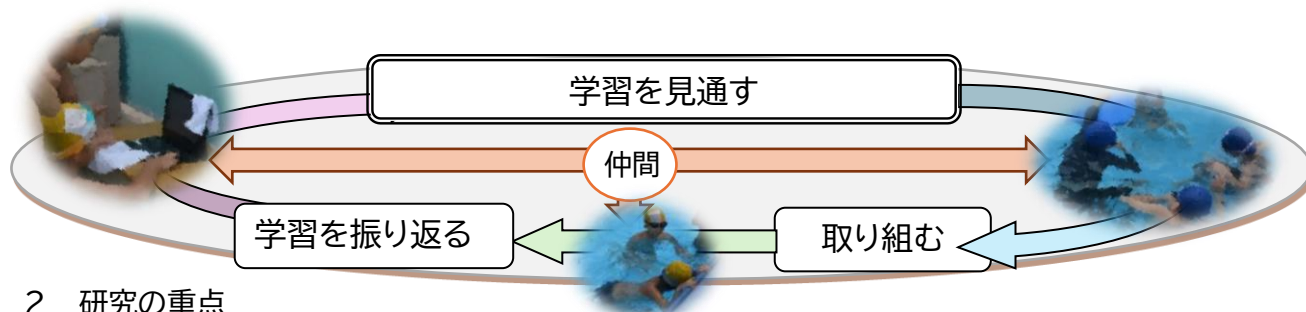
(1) 実施学年、実施単元、実施日、実施学校、授業者等

第1学年「走の運動遊び」 令和7年12月4日(木) 足立区立東加平小学校 伊賀上 直基 主任教諭

水泳運動系領域部会

1 領域における研究主題の捉え方

本部会では自ら学び続ける力を、学びのサイクルの中で学びを改善していく力と考えた。このサイクルを繰り返すことで、自分の能力に応じて自己保全や泳法の獲得等の学習課題を設定し、達成する楽しさや喜びを味わうことができる。自ら学びを進めていくには、学習課題の設定が大切であるとする。学習課題を設定するためには運動の行い方についての知識と理解が重要である。この知識は、仲間との協働的な学びの中で運動の行い方の理解や活動の工夫を促進させる。本部会では、自らの学習課題を仲間と共に解決し、学びのサイクルを充実させる水泳運動系の学習を展開していく。



2 研究の重点

(1) 子供による自己調整及び教師による学習環境のデザインの在り方

子供による自己調整で学習改善を図るためには、適切な学習課題の設定と運動の行い方の理解が必要である。知識を獲得し、活用を図るための学習資料の充実を図る。

また、子供が設定した課題に応じて、解決を図ることができるような場や補助具を工夫する。

(2) 学びのサイクルを回せていない子供〈飽和・停滞等〉への教師の関わり方

単元前半では教師が運動の行い方の理解を図る支援をする。単元後半においては、他の子供の様子に着目させる言葉かけを行う。

(3) 運動の楽しさや課題解決の喜びを支える学習活動

一人一人の運動経験や技能の差が大きく、命にかかわる運動である水泳運動の授業の充実を図るため、学習活動の工夫、学習意欲を高める単元の導入の工夫、子供同士の学び合いの工夫を図る。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

(1) 知識を獲得し、活用するための手立ての工夫

○デジタル水泳学習支援資料の活用

・全体像の把握
・ゴールイメージ
・運動の行い方の理解
・学習課題
・練習選択
・振り返りの促進

水泳学習支援資料（水泳運動系領域部開発）
SWIM MASTER SS ver.D

○学習課題に即した場や「浮く」「進む」「呼吸する」補助具の工夫

(2) 学びのサイクルの充実を図る教師の言葉かけ

○運動の理解を図る教師の言葉かけ

○協働的な学びを充実させたり、知識を活用させたりする教師の言葉かけ

(3) 学習活動の工夫

○今もっている力で取り組む学習活動

○学習意欲を高める導入の活動

○子供同士の学び合い、グループ編成の工夫



4 学習指導案

(1) 学習過程 < 第4学年 水泳運動「レッツ エンジョイ スイミング!!」 >

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9本時	10
段階	運動の行い方を理解しながら、学習課題を見いだす				学習課題を設定し、課題解決を図る					
子供の姿	運動の行い方や自分がどの程度できるのかを知り、学習課題を見いだす。				学習課題を設定し、友達と互いの運動の様子を見合いながら、学びの改善を図っている。					
学習内容・活動	○今もっている力で取り組む運動 ・リズム水泳 ・エンジョイタイム（共通） ○課題解決 運動の行い方を考え、試し、理解する。 ○学習のまとめ 運動を振り返り、学習課題を見いだす。				○今もっている力で取り組む運動 ・リズム水泳 ・エンジョイタイム（選択） ○課題解決 学習課題を設定し、場を選んで取り組む。 ・もぐる・浮く運動 ・浮いて進む運動 ○学習のまとめ 自分の取り組んだ運動を振り返り、次の学習を見通し、学習課題を設定する。					

(2) 本時の学習（10時間中の9時間目）

① 本時のねらい

- もぐる・浮く運動やばた足泳ぎなどの課題を設定し、活動の場を選択して課題解決を図ることができる。【思考力、判断力、表現力等】

② 本時の展開

学習内容・活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	本時における「自ら学び続けている子供の姿」
1 挨拶、人数確認、準備運動をする。 2 本時の学習を知る	○本時の運動につながる動きを意識させながら、ゆっくり行うよう言葉かけをする。 ○1時間の学習の流れを伝える。	
自分のめあてに合った活動を選んで、取り組もう。		
3 リズム水泳に取り組む。 4 エンジョイタイムに取り組む。 ・輪 ・ビート板 ・いかだ ・もぐる	○呼吸を整えながら、ゆっくり行うように言葉かけをする。 ◎水に顔をつけることが苦手な子供には、息を吸う、止める、つける順序で行うように言葉かけをする。 ○事前に設定した学習課題を確認する。 ○めあてのできばえを伝え合っている子供を紹介する。 ◎設定した学習課題と選択した学習活動が合致していない子供には、他の子供を紹介し、活動の修正の言葉かけを行う。 ◎めあてを既に達成してしまっている子供には、動きの言語化や動きの洗練化を図る言葉かけを行う。 ○体調の変化等をボディで確認するように言葉かけをする。 ○自己の伸びを実感することができたか振り返る。	・自分の課題を見つけ、どこを見てもらいたいか考えて友達に伝える。 ・友達の運動を観察し、できばえを伝えている。 ・友達の助言をもとに自分の課題を見直して、課題を選択する。
5 課題解決に取り組む。 ・自分の課題に合った運動を選ぶ。 ・自分の課題に合った場に行き、運動する。 6 人数確認、学習のまとめをする。 7 整理運動、挨拶をする。		

5 実証授業について

(1) 実施学年、実施単元、実施日、実施学校、授業者等

第4学年 水泳運動「レッツ エンジョイ スイミング!!」 令和7年9月5日(金)
千代田区立富士見小学校 授業者 関 隆行 主任教諭 千藤 理恵 主幹教諭 他

ゲーム領域部会

1 ゲーム領域における研究主題の捉え方

本部会では、子供が「学習課題を見いだし（見通し）、解決に向けて試行錯誤し（実行）、振り返りをして新たな学習課題を見いだす（振り返り）」という学びのサイクルを回すことができるような学習を目指している。昨年度はボールゲーム「ゴー！シューっと！」を開発し、ゲームへの没入感が学習課題の発見と解決の土台となることを示した。また、本ゲームを通じて子供たちが学びのサイクルを回し続ける具体的な姿を検討できた。一方で、協働的な学びの具体的な姿が十分に明示されていなかったことや子供の主体性を促す教師行動について、より体系的な指導法を検証する必要があることが課題として浮かび上がった。そこで今年度は、子供が夢中になるゲームの提案とともに本領域における「協働的な学びの目指す姿」や「子供の主体性を促す教師行動」を検討することを通して、個々が「自ら学び続ける力」を「仲間（本領域では「友達」）と共に」どのように伸ばし、学びのサイクルを回していくかを明らかにし、研究主題の実現を目指す。

2 研究の重点

（1）教師による学習環境のデザイン（子供が夢中になるゲーム）

子供がゲームと出会い、夢中になってゲームに取り組んでいく中で、自分の学習課題を見いだすことが「自ら学び続ける力」を高める学習の土台であると考え。そのために、教師は子供の学びの姿を明確にもち、学習環境（はじめの規則や用具等）をデザインしていくことが重要である。

（2）子供の主体性を促す教師行動

子供が学びのサイクルを自ら回し続けるためには、教師が子供の学習状況を的確に見取り、それに応じた言葉かけをすることが大切であると考え。また、教師が働きかけた子供がどのように変容していくかを見取ることで、個々の学習状況に応じた指導が可能になるだろう。「見取り①—言葉かけ—見取り②」を繰り返していくことで、子供の主体性を促す教師行動を検討していく。

（3）協働的な学びの姿と学びのサイクルとのつながり

「集団対集団」で行うゲーム領域において、自ら学びのサイクルを回し続けるために、協働的な学びのあり方が重要であると考え。今年度提案するベースボール型ゲームは、攻守の区切れが明確であり、協働的な学びの具体的な姿が見取りやすいと考えた。今年度は提案するゲームにおける協働的な学びの具体的な姿を明らかにし、学びのサイクルとどのように関連しているのかを検討する。また、授業場面において協働的な学習を促すための指導の工夫を提案していく。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

（1）子供が夢中になるゲーム

子供がゲームの特性を味わえるように、教師が学級の実態に応じて「はじめの規則」を設定することが重要である。今年度は、ベースボール型ゲーム「マイベース」（H30 本部会提案）を基にして、はじめの規則の選択肢を提案する。

（2）子供の主体性を促す教師行動

学習状況の「見取り①—言葉かけ—見取り②」を行うために、部内授業を通して「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点で子供の学習状況を検討している。また一単位時間の教師行動で、学習内容を深めるものと学ぶ意欲を促すものとを整理する。

（3）協働的な学びの姿と学びのサイクルとのつながり

提案するゲームにおける協働的な学びの具体的な姿を授業実践や動画記録から把握し整理する。また、学習カードなどの記述を分析し、内容の傾向や変容を把握することを通して、学びのサイクルとのつながりを探る。また、授業場面において協働的な学習を促すための指導の工夫の提案に向け、複数学級での実践を通してその有効性を検証し、汎用的な提案へまとめていく。

4 学習指導案

(1) 学習過程 < 第3学年 ベースボール型ゲーム >

時	1	2	3	4 (本時)	5	6
段階	ゲームを楽しみ、 学習課題を見いだす段階	ゲームを楽しむ中で個々の学習課題を共有し、 みんなで解決に向けて取り組む段階				
子供の姿	・素早く集まるために声を かけ合っている。 ・得点を一緒に喜ぶ。	・打者によって、守る位置を話し合っている。 ・ホワイトボードを活用して、どこに打つと得点につながりやすいかを話し合う。 ・守る際に、誰がどのように動くのかを話し合っている。				
学習活動	1 場の準備をする。 2 準備運動=をする。 ゲームにつながる運動 3 学習課題の確認をする。 4 ゲーム①に取り組む。 5 振り返り①をする。 6 ゲーム②に取り組む。 7 整理運動をする。 8 振り返り②をする。	※基本的な流れは、第1時と同様のため省略 どうしたら学級全体が楽しめるゲームになるか 規則 (例) どうしたら学級全体が楽しめるゲームになるのか 態度 (例) どうしたら一人一人が気持ちよくゲームができるか 点をとる／とらせない (例) どうしたら点をとる／とらせないことができるか どうしたらゲームで得点できるようになるか				

(2) 本時の学習 (6時間中の4時間目)

① 本時のねらい

- ねらったところにボールを打つことができるようにする。【知識及び技能】
- 友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ゲームに進んで取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	・本時における 「自ら学び続けている 子供の姿」
1 準備運動・ゲームにつながる運動をする。 2 学習内容を確認する。	○ 心と体が運動する準備をすることができるように言葉をかける。 ◎ 規則が把握できていない子には、ゲーム中に指導する。 ○ 子供と合意形成をして決めた学習課題を確認する。	・自分の学習課題を把握して、その解決方法を考えながら学習に臨んでいる。
3 ゲーム①に取り組む。 4 振り返り①をする。 5 ゲーム②に取り組む。 6 整理運動をする。 7 振り返り②をする。	○ 空いているところをねらっている子供を称賛し、攻め方のポイントについて問いかける。 ◎ 打つことが苦手な子供には、前時までの学習をチーム全体で想起できるような言葉をかける。 ○ 学習課題にかかわる考えやプレイ経験を積極的に取り上げ、共有する。 ○ 振り返り①で出た案を実践している子供や、新しい案を思い付いた子供を積極的に称賛する。 ◎ 点を取ることが難しい子供に対しては、動きのポイントを直接伝えたり、同じチームの子供に動き方のアドバイスを促したりする。 ○ 使った部位をほぐす。 ○ 学習課題にかかわる考えやプレイ、経験、ゲーム①との比較をしている子供を積極的に取り上げる。	・自分の考えたことを攻めや守りの時に体现することができる。 ・ゲーム①を振り返り、自分の課題を考え、ゲーム②に意識することを理解することができる。

5 実証授業について

(1) 実施学年、実施単元、実施日、実施学校、授業者等

第3学年ベースボール型ゲーム

令和7年10月21日(火) 文京区立誠之小学校 植村 信介 主任教諭

ボール運動領域部会

1 ボール運動領域における研究主題の捉え方

本部会は、東京都小学校体育研究会の研究主題「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習」を受けて、子供自身が「学びのサイクル（考える・実行する・振り返る）」を回すことによって、資質・能力を高めていく学習の在り方を検討してきた。ボール運動領域は、集団対集団の攻防を行う中で「ボール操作」や「ボールを持たないときの動き」などの技能を発揮することが学習の中心となる運動である。子供はゲーム中、常に状況を判断し、その状況に応じた意思決定を基に技能を発揮することが求められる。そして、その判断すべき状況は味方や相手、空間など多岐に渡る上、流動的である。そのため、本領域の学習では、ゲームの様相や状況から切り取られた特定の技能のみを習得できるようにすることを目指すのではなく、子供たちがそれぞれの状況に応じてどのようにプレイすればよいのかをチームメイトと協働的に探究することができるよう、教師が意図的な環境設定を行うことが必要であると考えられる。そこで、本領域部会では、ゲームを振り返ったり次のゲームに向けて話し合ったり練習したりする学習活動を工夫することで、研究主題の達成を目指すこととする。

2 研究の重点

昨年度の研究において、自ら学び続ける力を仲間と共に育てていくためには、子供自身が「どのようにプレイをすればよいか」を理解したり、チームのプレイの状況を認知したりできるようにすることが必要であると示唆された。加えて、先行研究の検討によって、子供たちが学習を調整できるようにするためには、子供が自身やチームのプレイを評価することが可能となる学習環境を教師が工夫していくことが重要であることが明らかとなった。そのため、子供自身が学びのサイクルを回し続けられるようにするための学習環境の在り方として以下の3点を検討することを今年度の重点としている。

(1) 教師による学習環境のデザイン

教師は子供たちの実態から、本単元において何を学習させたいのかを明確にした上で、学習環境をデザインすることが求められる。そのため、学習内容に応じて、意図的にルールを修正した教材を提示したり、本単元において探究するテーマについて子供たちと共有したりしていく必要があると考える。また、ゲーム間や授業間に振り返りを行う時間の設定や振り返りを行うためのツールの提示も教師が行うべき学習環境に内包されていると本部会では捉えている。

(2) 教師のかかわり

教師は子供の学習状況を評価し、学習状況に応じたかかわりを行うことが求められる。そのため、「何を」「いつ」「どのように」評価し、「どのように」子供とかかわることで子供一人一人が自ら学び続けることができるのか検討することが必要であると考えられる。なお本部会では、子供たちの学習状況は一人一人異なると捉えているため、学習を段階的に積み上げていくための教師主導の働きかけを研究の重点とするのではなく、子供一人一人の学習状況に応じたかかわり方を検討することとする。

(3) 子供が自ら学び続けることを可能とする学習・評価ツール

子供が、自分やチームのプレイを振り返り、学習を調整するための動画や作戦ボード、記録カードなどの学習・評価ツールを工夫することで、子供自身が学びのサイクルを回すことができると考える。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

(1) テーマと教材の設定

- ①学びを深めるテーマの設定
- ②学習内容に応じた教材の設定

(2) 教師による相互作用行動

- ①子供の学習状況を評価するための教師行動
- ②子供の学習状況に応じた教師のかかわり

(3) 学びを深める学習評価

- ①ポートフォリオ評価とポートフォリオ検討会
- ②ゲーム理解を促す学習カード

4 学習指導案

(1) 学習過程< 第5学年 ボール運動 「ネット型」 >

	1	単元前半	単元後半（5校時本時）
段階	ルールや行い方を理解する。	ゲームや振り返り、練習を通して効果的な動き方に気付いたり身に付けたりする。 ゲームや振り返り、練習を通して、テーマに迫る動き方を探究する。	
子供の姿	・ルールを理解し、自チームや相手チームとともにゲームを楽しんでいる。 ・ゲームを振り返り、どのようにプレイしたらよいかを考えたり伝えたりする。 ・ゲームの様相や状況に応じたプレイを行っている。 ・次のゲームに向け、どのようにプレイしたらよりよいかをチームメイトと共有している。		
学習活動	1 ウォームアップ 2 ルールの確認 3 ゲーム① 4 振り返り 5 ゲーム② 6 振り返り	ポートフォリオ 検討会 ※タイミングや回数は 検討中	1 ウォームアップ 2 テーマの共有 3 ゲーム① 4 振り返り・チーム練習 5 ゲーム② 6 振り返り

(2) 本時の学習（6時間中の5時間目）

① 本時のねらい

- 効果的なボールのつなぎ方について考えたり発言したり、できるようにしたりする。

【知識及び技能／思考力、判断力、表現力等】

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	本時における 「自ら学び続けている子供の姿」
1 ウォームアップをする。 2 本時のテーマを共有をする。 3 ゲーム①をする。 4 振り返り・チーム練習をする。 5 ゲーム②をする。 6 振り返りをする。	○子供やチームの状況を評価する。 ◎どのようにプレイしたらよいかを理解していない子供には、本人やチームメイトに発問をしたり、アドバイスや演示をしたりする。また、本人やチームメイトが学びを実感できるような価値づけを行う。 ○子供やチームの状況に応じた発問を行う。	・どのようにプレイをしたらよいかを考えている。 ・考えたことを意識して、ゲームや取り組んでいる ・自己やチームのプレイを振り返り次のゲームに生かそうとしている。

5 実証授業について

(1) 実施学年、実施単元、実施日、実施学校、授業者等

第5学年 ボール運動「ネット型」

令和7年11月27日（木） 江東区立小名木川小学校 大久保 勝国 主任教諭

表現運動系領域部会

1 表現運動系領域における研究主題の捉え方

表現運動系は、自己の心身を解放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ったり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、学習の進め方としては、いずれも自由に動きを工夫して楽しむ創造的な学習であるとされている。そこで、本部会は研究主題を受けて、

- ① 心と体を解放し、表現運動系の楽しさや喜びを味わうこと
- ② 表現運動系の学び方を知ること

の2つが保証されることで、自ら学び続けることができると考えている。

表現運動系の学び方とは、「全身で踊る」「表したい感じやイメージを動きにする」等の運動の行い方と、学びのサイクルの回し方と捉えている。また、学びのサイクルを「見通しをもつ（イメージをふくらませ、ふさわしいと思う動きを選ぶ）」→「踊ってみる（イメージの世界に没入して踊る）」→「振り返る（イメージにふさわしい踊りになっていたかを伝え合う）」とし、この学びのサイクルを子供自ら回し続ける姿を『自ら学び続ける力』と捉えた。

2 研究の重点

(1) 子供による自己調整及び教師による学習環境のデザインの在り方

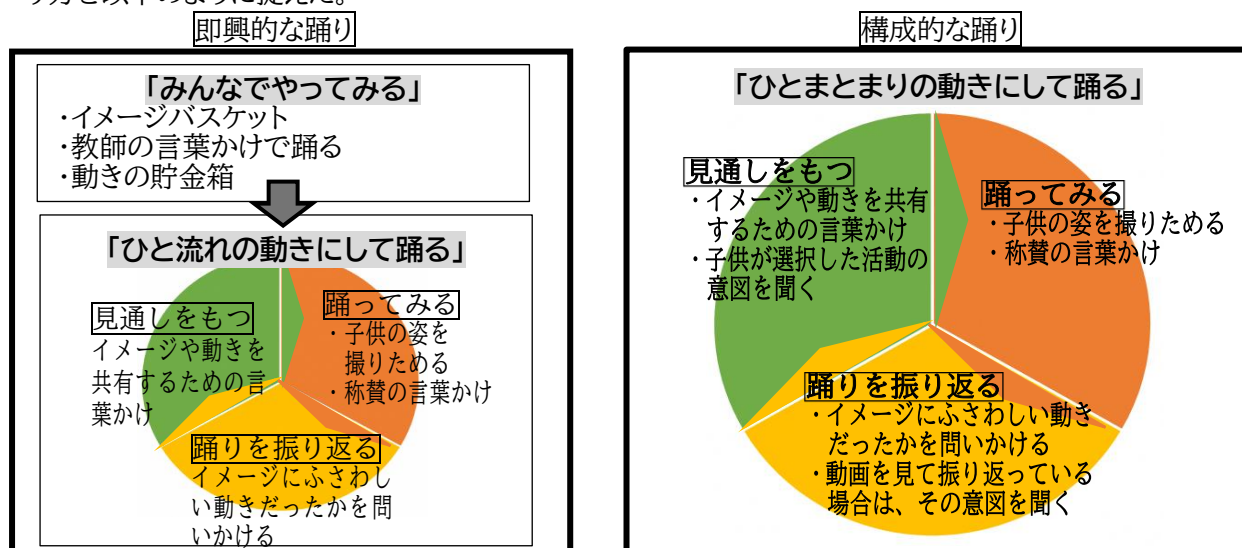
「学びのサイクル」を子供自ら回し続けるための学習環境として、以下の手立てを講じる。

○学習過程	○題材設定	○イメージバスケット	○イメージムービー
○イメージスライド	○イメージボード	○「動きの貯金箱」の活用	○一枚ポートフォリオの活用
○BGMの工夫	○ICTの活用	○他グループに飛び込んで一緒に踊る	○見合い 等

上記の中でも、特に今年度重点とするのは「表したい感じやイメージを膨らませる『イメージバスケット』と「よい動きを書きためる『動きの貯金箱』の活用」である。この2点は、本部会の考える「学びのサイクル」を回し、学びを深めていくうえで有効ではないかと考えている。

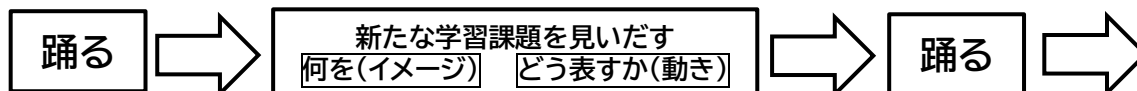
(2) 学びのサイクルを回せていない子供（飽和・停滞等）への教師の関わり方

表現運動系の特性を踏まえ、単元前半における子供の学びを飽和・停滞させないための指導も重要だと考える。これらを踏まえた上で、学びのサイクルを回せていない子供（飽和・停滞等）への教師のかかわり方を以下のように捉えた。



(3) 表現運動系領域部会の重点「踊りを創造していく子供の育成」

踊りを創造している子供の姿は、踊った後に新たな学習課題を見いだす子供の姿と捉えた。



3 研究主題を実現するための手立ての工夫

- (1) 子供が活用する「イメージバスケット」「動きの貯金箱」
- (2) 学びのサイクルに応じた教師のかかわり
- (3) 踊りを創造する段階において、学習課題を見いだすための活動選択

4 学習指導案

(1) 学習過程 < 第5学年 表現運動 「表現」 >

時	1	2	3	4	5	6（本時）	7
段階	学び方を知る 表現の楽しさや喜びを味わうこと、運動の行い方、学習課題の見だし方、学びのサイクルの回り方等の学び方を知る段階				踊りを創造する 学びのサイクルを回しながら、グループで選んだ題材の踊りをよりよくしていく段階		
子供の姿	心と体を解放し、楽しさや喜びを味わっている姿	イメージスライドを使い、学びのサイクルを回して「大変だ!」を踊っている姿。 見通しをもつ ⇒ 踊ってみる ↶ 踊りを振り返る ↷			学びのサイクルを回し、自分たちの踊りをよりよくしようと、新たな踊り（学習課題）を見いだしている姿。 見通しをもつ ⇒ 踊ってみる ↶ 踊りを振り返る ↷		
学習活動	1 心と体をほぐす（体ほぐしの運動、リズムダンス 等）						
	2 みんなでやってみる				2 ひとまとまりの動きにして踊る		
	3 学習計画	3 ひと流れの動きにして踊る					
	4 振り返り 本時の学習の振り返りをする。						

(2) 本時の学習（7時間中の6時間目）

① 本時のねらい

- 表したい感じやイメージにふさわしい動きになっているか確かめたり、他のグループと見合ったりして、よくなったところや、よりよくできるところを伝えることができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ○配慮の必要な子供への支援	・本時における「自ら学び続けている子供の姿」
1 学習活動の確認をする。 2 心と体をほぐす。 ・スキップ&ストップ ・リズムダンス 等	○相手の動きを意識させられるような活動を取り入れる。 ○苦手意識をもっている子供には、「先生の真似をしてみて。」と言って一緒に踊ることで、表現運動の楽しさを味わわせる。	・心と体を解放し、表現運動系の楽しさや喜びを味わっている。
3 ひとまとまりの動きにして踊る。 ・イメージボードを使い「はじめ—なか—おわり」の3つの場面ではひとまとまりの動きを考える。 ・一番表したい場面（なか）が強調されるように工夫しながら踊る。	○表したい感じやイメージにふさわしい動きになっているか問いかける。 ○動画で観たり、友達からアドバイスをもらったりすることで、自分たちの踊りをよりよくすることに繋がることに気付かせる。 ○場面を強調する工夫を見付けることができている児童には、動きの貯金箱を見ながら4つの工夫がどのようなものだったかを思い出すように促す。	・学びのサイクルを回し、ICT や見合い、動きの貯金箱を活用しながら、自分たちの踊りをよりよくしようと、新たな踊り（学習課題）を見いだしている。
4 クーリングダウンをする。 5 学習の振り返りをする。	○本時の学習課題を解決することができたか問いかけ、本時の成果や課題に気付かせる。 ○今日の学習を通して表現を楽しむために大切だと思えることを記入できるようにする。	・自分たちの課題を見だし、次の活動につなげようとする。

5 実証授業について

(1) 実施学年、実施単元、実施日、実施学校、授業者等

第5学年表現運動「表現・大変だ!」 令和7年11月25日（火）文京区立林町小学校 塚越 潤 主任教諭

保健領域部会

1 保健領域における研究主題の捉え方

本領域では、研究主題について以下のように捉えた。また、学習内容と生活が密接にかかわっているという本領域の特性を踏まえ、学習と生活を往還させながら、学んだことを実生活に生かせるような授業づくりを行っていく。

①「自ら学び続ける力」を身に付けた子供の捉え

健康の大切さに気づき、保健の学習で仲間と共に得た健康課題の解決の仕方を身に付ける。それらを生かし自分の生活において、健康課題に気づき解決し、健康を保持増進していこうとする資質・能力を身に付ける。

②健康について仲間と共に学ぶことの捉え

授業で仲間と共に学んだり、学校や家庭の生活で学んだことを実践したりすることで健康に生活するための力を付けられるよう計画的に学習活動を行う。

2 研究の重点

(1) 子供が見通しをもって主体的に学習に向かう学習環境のデザインの在り方

○振り返りの場面を設定し、次に何を学ぶのか子供が見通しをもてるようにする。

○授業時間外でも学びを進めることのできる ICT 活用の工夫や授業後の生活実践の場を設定する。

(2) 学びのサイクルを回せていない子供《飽和・停滞等》への教師の関わり方

○自分の生活や事例をもとに健康課題が将来起こりうることとして課題に取り組めるようにする。

○より学習を深めたり、広めたりできるよう養護教諭による専門的なアドバイスや協働的な学習の場面を設定する。

(3) 保健領域部として重点

①カリキュラムマネジメントの視点からの授業作り

健康は生涯にわたるものであるから、キャリア教育としても行うことが必要と考えている。他教科と関連付けて学習を深め、健康が将来の自分にも大切なものであることに気づき、よりよく生活していこうとする素地を育てる。

②子供の変容の見取り

授業前後だけではなく、長期的な健康に関する考え方・意識の変化を見取れるようにする。

評価規準を明確にしたうえでの学習カードの分析方法を探る。

③出会いの工夫

第3学年は保健の学習との出会いの場でもある。保健の授業が楽しい、やりたいと思えるような設定にする。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

- ・子供が学びたい、学んだことを伝え合いたい、実践したいと思える学習環境の設定
- ・学習ポートフォリオの工夫(見通し、振り返り、学びの軌跡)
- ・授業時間内外での学びの方法の提示
- ・学級担任、養護教諭のかかわり方
- ・ICT 機器の活用
- ・子供が保健の学習を楽しんでいる学習との出会い(動機付け)
- ・総合的な学習の時間や保健に関する指導と関連付けた展開の工夫

4 学習指導案

(1) 学習過程

＜ 第3学年 体育科保健領域 健康な生活「 ゆめに向かってスターになろう！ 」 ＞

時	1	2 (本時)	3	4
段階	①学習との出会い	②学習課題を見いだす ③課題解決のために取り組む		④自分の学習課題を見いだす
子供の姿	・健康の大切さについて考えている。 ・健康とは何か？について考えている。 ・健康でいることがかけがえのないことだと感じている。	・調べてきたことを話し合っている。 ・友達との情報交換によって、健康な生活について理解を深めている。 ・健康でいるための生活の仕方について、課題解決のための方法を見付けている。		・自分で調べたことを表現して、友達に伝えている。 ・自分の生活を振り返り、自分の課題を見いだしている。
学習活動	1 健康とはどんな状態かについて考える。 2 健康でいることの大切さについて、考える。 3 健康でいるために必要なことを予想する。 4 これからの学習計画を立てる。	1 前時を振り返り、今日の学習計画を確認する。 2 健康でいるために、必要なことについて調べる。 3 調べた内容について、グループで共有する。 4 次の課題に取り組む。 5 調べた内容をまとめていく。		1 これまでまとめてきた内容を他のグループとも共有する。 2 自分の生活を振り返り、自分の課題を見いだす。 3 課題を解決するための方法を考える。 4 これから健康に過ごすために続けていきたいことをまとめる。

(2) 本時の学習（4時間中の2時間目）

① 本時のねらい

- 健康の保持増進には、1日の生活の仕方、体の清潔、生活環境が関係していることについて理解できるようにする。【知識】
- 学習したことを活用して、健康に過ごすための方法を考え、表現できるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	本時における 「自ら学び続けている 子供の姿」
1 前時を振り返り、今日の学習計画を確認する。 2 健康でいるために、必要なことについて調べる。 3 調べた内容について、グループで共有する。 4 次の課題に取り組む。	○前時を振り返り、健康に関係している事柄を確認する。 ○情報を得られる場所を設定する。 ◎個別の言葉かけをする。 ○次の課題を自分で選択できるように設定する。	・調べたい内容を自分で決めて、取り組んでいる。 ・調べた内容を友達に伝えている。 ・自分で学びたいことを選んでいる。
5 今日の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	○学んだことを自分の生活と関連付けて考えられるようにする。	

5 実証授業について

(1) 実施学年、実施単元、実施日、実施学校、授業者等

第3学年 保健領域「けんこうな生活」 令和7年12月1日(月)

連雀学園三鷹市立第六小学校 吉田 直崇 主幹教諭 丸田 樹理 主任養護教諭

体育的活動領域部会

1 体育的活動領域における研究主題の捉え方

本部会では研究主題を実現していくために、体育的活動における運動遊びの特性（魅力）を以下のように整理した。「子供の自己選択・自己決定の連続」「運動遊びの自由度が高い」「心も体も満足することができる」この3つの魅力を大切に、活動のサイクルを回すことで自ら学び続ける力を身に付けていく。そして、体育的活動の価値を追求していくことで、体育科と日常的な運動遊びとの架け橋としていく。

2 研究の重点

(1) 教師による自由度の高い活動環境のデザインの在り方

昨年度の、教師が示した遊びの中から子供が選択をしていた形から、これまでの体育的活動の時間で経験した運動遊び、休み時間や放課後などで子供が遊んだことがあるもの、体育の授業で取り組んだことのある種目など柔軟に運動遊びの選択ができるようにしていく。

(2) 活動のサイクルを回せていない子供への教師の関わり方

活動のサイクルが回せていないと感じる子供の様子を、今までの研究結果（児童アンケート、活動実践など）から検討した結果、公正・協力（きまりを守らず、仲良く取り組もうとしないなど）に課題が見られることが多いと考えた。そのため、教師による活動前の子供の実態把握や、楽しく遊ぶための雰囲気づくりについても検討していく。

(3) 体育的活動における楽しさの実感をする振り返りの充実

子供は体育的活動で、思い切り体を動かすこと、協力して運動遊びを行うこと、試行錯誤しながら、新たな遊び方を生み出すことなど、様々な楽しさを味わうことができる。さらに、子供が活動を振り返ることで、より楽しさを実感したり、次の活動をより楽しく行うことができたりする。振り返りを充実させることにより、体育的活動の楽しさの幅を広げていく。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

(1) 自己決定の幅を広げられる環境づくり

自己決定の幅を広げられる環境をつくるには、子供同士が心理的安全性をもつことが大切であると考えた。子供同士が心理的安全性をもち、誰と遊ぶか、どのような用具を使うか、どのようなルールで遊ぶかなど子供に委ねる部分を広げる。体育的活動のもつ自由度が高いという利点を最大限に生かし、子供の思いや願いに寄り添った活動環境を提供していくことを大切にしていく。

(2) 子供の活動がより高まる教師の関わり

教師は、運動遊びに取り組んでいる子供の姿を見取り、「一緒に遊ぶ」ことや、ファシリテーターとして、「称賛」「価値付け」「問いかけ」「見守り」「支援」等の活動状況に応じたかかわりを意識して行う。

(3) 活動中や活動後の振り返り（フィードバック）

活動中や活動後に振り返り（フィードバック）をすることで、子供が運動遊びで様々な楽しさを実感することができる。教師による問いかけや振り返りの視点、1人1台端末の活用など子供の実態に合った振り返りの行い方を検討し、振り返りを充実させていく。

4 学習活動案

(1) 活動過程

段階	活動の仕方を知る・活動をやってみる・活動を楽しむ・活動の新たな楽しさを見出す
子供の活動	・たくさんの運動遊びの中から選択・決定する。 ・自分で選んだ運動遊びで遊ぶ。 ・遊びを振り返る。 ・次回はどうか考える。 【子供が選んで行う運動遊び】 ・ピーターパン ・9マス鬼 ・氷鬼 ・レンジでチン鬼 ・ドッジボール など
教師のかかわり	・運動遊び動画の QR コードを掲示する。 ・一緒に遊ぶ。 ・サイクルが回せていない子供に支援する。 ・活動が飽和、停滞していたら状況に応じて問いかけ・支援する。

(2) 今回の活動

① ねらい

- 様々な運動遊びを自己選択し、すすんで取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

② 展開

活動内容・活動	○教師のかかわり ◎配慮を要する子供への支援	自ら学び続ける 子供の姿
1 自分達で決めた遊びで遊ぶ。	○場の安全が確保できているかを確認する。 ○子供の活動に応じたかかわりをする。 <○教師のかかわりの例> <・子供の様子の例> ○子供と一緒に遊び、共に楽しさを見付けていく。 ○遊んでいる様子を見て必要に応じて支援する。 ・夢中に活動している。 ・遊び方を試行錯誤している。 ・活動が止まっている。 ○称賛 ○見守り ○問いかけ ○一緒に遊ぶ 等	・子供自身が楽しいと思った運動遊びを選択している。 ・場や用具、遊び方などを考えて活動している。 ・仲間と相談をし、より楽しく活動する方法を考えている。
2 遊んだ友達と活動を振り返る。	○グループ・個・全体など活動状況に応じて振り返りの仕方を判断し、声をかける。 ◎自分の意見を伝えるのが苦手な子供を支援する。	

5 実証授業について

(1) 実施学年、実施単位、実施日、実施学校、授業者等

第5学年 体育的活動「船スポタイム」 令和7年11月14日（金）
江戸川区立船堀小学校 加藤 広大 教諭

5 夏季合同研究会の日程

(1) 全体の日程

8:00		9:05		11:20		14:05		16:20	
受付	全体会 (挨拶・ 研究経過)	移動	研究分科会①	昼食	研究分科会②	移動	研究分科会③	閉会	
8:30		9:20		12:05		14:20		16:25	

(2) 分科会の日程等

研究分科会① 9:20～11:20

領域部会	場 所	指導・助言
多様な動きをつくる運動(遊び)	多目的室C	教育庁指導部指導企画課 指導主事 菅原 直人 様
器械運動系	4年2組と 算数少人数教室	品川区教育委員会 指導主事 黒澤 有貴 様
ゲ ー ム	体育館	豊島区教育委員会 指導主事 上原 歩 様

研究分科会② 12:05～14:05

領域部会	場 所	指導・助言
体の動きを高める運動	多目的室C	世田谷区立弦巻小学校 副 校 長 森田 好一 様
陸上運動系	4年2組と 算数少人数教室	港区教育委員会 指導主事 花井 拓也 様
ボール運動	体育館	狛江市教育委員会 指導主事 平井 政知 様
表現運動系	3年2組と 3年3組教室	世田谷区教育委員会 指導主事 山本 圭郎 様

研究分科会③ 14:20～16:20

領域部会	場 所	指導・助言
水泳運動系	4年2組と 算数少人数教室	教職員研修センター 指導主事 菊地 誠 様
保 健	多目的室C	杉並区立済美教育センター 指導主事 梅林 伸幸 様
体育的活動	体育館	教職員研修センター 指導主事 森山 雄樹 様

6 アンケートの二次元コード

(1)夏季合同研究会 事前アンケート

各領域の授業づくりについて、日頃お考えになっている「聞きたい！知りたい！」を、お気軽にお寄せください。部会と参加者の皆様と双方向の議論によって、よりよい体育学習の在り方を追求します。

8月18日(月)までにいただいたご意見をもとに、夏季合同研究会での議論を行います。8月19日(火)から8月21日(木)夏季合研当日までにいただいたご意見については今後の研究に生かしてまいります。

多様



高める



器械



陸上



水泳



ゲーム



ボール



表現



保健



体活



(2)夏季合同研究会 事後アンケート

夏季合同研究会にご参加ありがとうございました。お気付きの点を教えてください。次年度の運営等に生かしてまいります。

事後アンケート



7 夏季合同研究会 会場案内

